Management Club Report

Mar.2011/Vol.99

Monthly Opinion　≪今こそ希望を作るとき≫

閉塞感から脱け出すために自ら希望を作り出そうと、１月号で『希望』について書いた矢先、現代の日本人が体験したことのない大災害が起きてしまいました。人類史上最大級の巨大地震と、その結果生起した想像を絶する大津波は東北地方から北関東にかけての太平洋沿岸に甚大な被害をもたらしました。

テレビから流される、津波が町を呑み込んでいく映像は、映画の作りものの世界ではないのかと我が目を疑いました。新聞に掲載された被災地の惨状は、焼夷弾で焼かれ廃墟となった戦時中の町の写真なのではないか、平和な現代の日本では絶対にあり得ない、絶対に起こり得ない風景を見て誰もが言葉を失ったことでしょう。

被災地で行われた小学校の卒業式、全員が揃うべくもない卒業生を代表して男子生徒が読んだ答辞の一節。「神が与えた試練というには、あまりにもむごい試練です」。こみ上げる悲しみをこらえ切れずに泣きながら読み続ける男の子の姿に多くの日本人は悲しみを共有し涙したことと思います。

すべての日本人が何とかして同胞を助けたいと強く思い、さまざまな支援活動に乗り出しています。今こそが、いろいろな方法でいろいろな形の希望を作って行く時であることは間違いありません。再び、玄田有史先生の『希望学』を参考に『希望の作り方』について考えてみたいと思います。

1　未曾有の大災害に思う

被災会員の安否について

ＭＣ会員の関係者の中にも犠牲者が出てしまいました。石巻に隣接する東松島市も大きな被害を受けましたが、その地で平成９年以来順調な経営と平和な生活を続けてきたちばたか歯科医院の千葉隆広先生は、診療所こそ残ったものの家族２人と自宅を失いました。慰めの言葉を知りません。

一度院内研修で訪問したことがあります。仙台から松島を経由した矢本駅のほど近く、青々とした田園風景の中に建つ60坪の立派な歯科医院で、都会的な洗練されたインテリアとスタッフの応対ぶりが印象に残っています。

一瞬にして町が消滅した南三陸町。本レポートの90号のリレー評論で、その確固とした信念と素晴らしい予防歯科への取り組みを伝えてくれた佐藤歯科クリニックの佐藤長幸先生は、診療所と自宅を失いました。避難が早かった院長やスタッフは全員無事であったことが何よりではありますが、佐藤先生とスタッフの方たちのこれからを思うと暗澹たる気持ちにさせられます。

３月21日になってようやくネット環境が回復したと、佐藤先生からメールが入りま